

# 青年部 だより

## 新体制で頑張ります！

スミサク分会 林 涼 史

第30回支部青年部定期総会が11月11日午後6時から地本会議室で開催され、12分会・22名の参加により、来期の運動方針と新役員体制および任務分担について討議、決定しました。なお、担当執行部は小林書記次長、田村・川村両執行委員の3名です。

戦、反核、平和と民主主義を守る運動」「青年労働者の組織化と交流」「教宣活動の強化」「各種共闘・国際連帯の取り組み」「大阪支部の取組み」のさらなる強化が提案され、全会一致で確認されました。

今期は青年部活動のより活性化

青年部活動は支部執行部や、各分会の組合員のご支持、ご協力がなければ発展しません。役員・部員ともども頑張っておりますので、今後とも、皆様のお力添えをお願いいたします。

### 新年度青年部役員体制

- 部長:松下泰士(大正埠頭)
- 〃 :附野雅一(加藤運輸)
- 〃 :横山貴安基(スミサク)
- 事務局長:山本武司(第一商事)
- 事務副次長:川又栄治(此花荷役)
- 運営委員:山口勇輝(大正埠頭)
- 〃 :水口亮太(サユサービス)
- 〃 :松下誠児(サユサービス)
- 〃 :児玉貴文(此花荷役)
- 〃 :金津亮介(此花荷役)
- 〃 :玉城創一(大森)
- 〃 :玉城直樹(大森)
- 〃 :近藤成真(朽木協鐵)
- 〃 :名越勇偉(朽木協鐵)
- 〃 :増田峻介(朽木協鐵)
- 〃 :上山拓也(阪南港運)
- 〃 :林涼史(スミサク)
- 〃 :市川圭介(大阪港埠頭)
- 会 計:堀江真貴(第一商事)



全港湾大阪支部青年部第30回定期総会

今期の役員は、森さん・大津さん(サンユ-分会)、濱崎さん(大正埠頭分会)の3名が退かれ、新役員19名体制となりました。

をめざし、役員同士・部員同士の横の繋がりを深めて、活発に活動していく事を決意し、松下青年部長の「団結ガンパロー！」をもって閉会しました。

新年度の活動方針として、「反

### ～ 教宣部編集後記 ～

人それぞれ、記事の書き方も違います。どこを強調してるのか探るのも面白いですよ (陣内)

50歳を越えると目の衰えと体の衰えを感じます... (赤保)

長期を見据えて頑張りすぎない。それがモットー! (川村)

毎朝、ほぼ前の日の新聞を見ている。朝は誰も新聞受けに取りに行かない。(山本)

急に寒くなり腰痛が心配です。みなさんもお自愛ください。(中野)



組合員のみなさん「だんけつ」読んでくれてありがとうございます。毎号気合いを入れ発行します。(宇田)

まだまだ、部員のみなさんにご迷惑をお掛けしています。これからは、もっと勉強して頑張ります。(赤嶺)

記事を書いていただくかた大変ですが、よろしく願います。(山科)

選挙に行こう!とにかく、選挙に行こう。(日高)

機関紙推敲を担当しています。しかし、もう一度部長に返り咲くぞ~????? 復帰が早いかな、惚けるのが先か! (平石)

# だんけつ



発行  
大阪市港区築港1-12-27  
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部  
発行責任者 林 繁 行

## 大阪維新改革は支持されたのか!

執行委員長 山元一英

11月22日大阪ダブル選挙の結果は、市長選が吉村氏(59万6千票)、柳本氏(40万6千票)、府知事選が松井氏(202万票)、栗原氏(105万票)となり、いずれも大阪維新候補の圧勝となった。今後4年間は、大阪維新政治が続くことを大阪府・市民は選択した。しかし、選挙で勝ったからと言って、「大阪維新の党」の政策全般が承認されたわけではない。

私たちは、格差社会を拡大する新自由主義路線、安倍政権と同調する橋下維新による教育統制強化、行財政改革の名による福祉の切り捨て、日米同盟を基軸とした「戦争する国」等に、あくまでも反対していかなければならない。その上で、今回反維新勢力が何故敗北したのかを市長選に特化して若干考察したい。

まず第一には、投票率の低下である。今回市長選の投票率は50.5%で、前回2011年に比して10.4ポイント低下、大阪都構想の住民投票66.8%と比べ16.3ポイントも下回った。すなわち、無党派層を含め賛成、反対派ともに棄権に回った市民が増えたといえる。

第二に、投票率の低下と共に得票率(右図)も、維新派の橋下氏と比べ吉村氏も15.4ポイント、反維新派の平松氏と比べ柳本氏も11.6ポイントと、大幅に得票数を減らしている。得票率の低下は、4年前と比べ大阪維新の会の方が反維新勢力よりも大きい、依然とし



て維新派の固定票が高いことを物語っている。とりわけ都構想住民投票と比べれば、維新派票は9.8ポイントの低下であるが、反維新派の反対票は29.9ポイントも減らし、住民投票での反対票を反維新得票に反映できなかったことが明白である。

では何故、反維新勢力は都構想反対票を得票とすることができなかったのか? 住民投票では、まさに都構想(大阪市の解体)に賛成か反対かの二者択一を迫るもので、争点ははっきりしていた。しかし、今回の市長選となれば「都構想」は一つの争点だったとはいえ、経済、教育、福祉政策等、市民生活全般がどうなるかが問われ、反維新勢力(自民・民主・共産)は、候補者を柳本氏(自民推薦)に一

本化することはできたが、政党間の政策協定は成立していない。反維新勢力が、個々バラバラの政策のまま、維新の政策と対峙することができなかったことが、市民に選挙への関心と維新政治の危険性を知らしめることができず、棄権を選ぶ結果となったのではないだろうか。

今回のダブル選の敗北は、大阪だけではなく全国的な政治構図に大きな影響を与えることとなった。安倍政権は、早速「憲法改正」の重要なパートナーとして「橋下・大阪維新」との連携を模索し始めた。私たちは、戦争法の廃止を始め、大衆運動を拡大し、政治意識を高め、自らの階級政策を実現する政治勢力の形成を急がねばならない。

## 訪韓報告

## 韓国労働者との交流

執行委員 田村 吉雄

韓国・全国労働者大会参加訪韓団の一員として、吉馴書記次長と共に、11月3日から9日までの日程で韓国を訪れ、ソウルや韓国全羅北道(全北)の労働組合と交流しました。

出発前の11月2日には、ソウルで3年半ぶりに日韓首脳会談が開かれました。最大の懸案であった従軍慰安婦問題について、早期の解決を目指すことでは一致したものの、具体的な補償等を示すには至りませんでした。

## 西大門刑務所歴史館

11月4日、西大門刑務所歴史館を見学しました。1908年、日帝により設けられた、韓民族の抗日独立運動に対する弾圧に使用された代表的な施設です。



チョンテイル像前で

施設内には当時の拷問のシーンの模型などが展示されており、「同じ人間同士がこんなに残虐なことをしてしまうのだ」と胸が締めつけられる思いがしました。

私たちが見学している時、韓国の小・中学生たちも見学していました。この子たちに、私たち日本人がどのように映ったのかを思ったとき、非常に辛い思いになりました。

## 水曜集会

その後、在韓日本大使館前にて水曜集会(日本軍「慰安婦」問題解決全国行動)に参加しました。訪韓団からは、神戸支部の福山さんがアピールをしました。

日本は戦時下、韓国の女性を慰安婦(性奴隷)として、まるで消

耗品のように扱いました。

歴史犯罪には時効はないと痛切に感じました。しかし、日本が非人道的な戦争犯罪を認め、きちんと謝罪・補償し、名誉回復に努めれば、この問題は解決するのです。戦後70年経った今も解決できていない責任は一重に、誠実に謝罪しない日本にあります。

## 闘争現場

ソウルから移動した韓国中部の全州では、3ヶ所の闘争現場を訪ねました。

タクシー運転手の待遇改善を求めた市役所前でのテント闘争、益山(イクサン)での工場労働者の不当解雇撤回闘争、群山(クンサン)ではGM非正規職支会での解雇撤回闘争の現場を激励に回りましたが、長期闘争でも、明るく前向きに闘っている姿勢が伝わってきました。

日本と同様に、資本家の都合で弱い立場の労働者が整理解雇や不当解雇をされるなどしていました。増え続ける非正規労働者が、労働者全体の条件の低下を招いています。私たち、日本の職場でも同じように非正規、パート等で不安定な環境におかれている労働者を支え、共に闘える環境をつくらないといけないと痛感しました。

## 全教組と懇談会

11月6日には全教組と懇談会を

もちました。韓国の教育現場では、独裁国等が取り入れている教科書の国定化で歴史を美化する方向に危機感を持ち、全教組は「教員として正しい歴史教育をおこないたい」と話し、表現の自由、民主主義を擁護するために反対していると話されました。朴槿恵(パク・クネ)大統領は父の朴正熙(パク・チョンヒ)政治の美化を意図しており、歴史の歪曲という点では、日本の安倍と同じだと思いました。

懇談の中で、韓国労働者が「韓国も自国での戦争犯罪は謝罪せず、なぜ他国に謝罪を迫ることができるのか」と話していたのが印象的でした。

“記憶されない歴史は繰り返される”と言われるように、政治家、資本家による歴史の「美化」が進められていると思います。



ソウル市庁舎広場

## 韓国の非正規雇用

今、韓国では、労働者同士を競争させ、成績が悪ければ解雇できるという、企業の思い通りにできる「労働市場の構造改革」が押しすすめられています。



水曜集会(日本領事館前)に参加

非正規労働者の2年雇用後は正社員化が義務だったのが、非正規雇用を4年に延長させるなどの政策で、企業は長期間、非正規労働者を使える等、政治家、資本家は利益追求のために過去に例のない最悪の労働法改悪が進められていると報告がありました。

労働法改悪阻止の運動の弾圧に対しては、12月上旬にゼネストを構えているとのことでした。

## 最終日

11月9日には、ソウル市庁舎広場にて石綿肺被害者集会に参加し、訪韓団からは中村氏がアピールをおこないました。集会では被災者を救済せよとの訴えがあり、野辺送りの儀式や公園内でデモをして、世論にアピールしていました。

## おわりに

今回の訪韓では、全国労働者大会が延期され、大変残念ながら参加できませんでした。

それでも、初めての外国の労働

者、韓国の労働者との交流など貴重な経験をさせていただき、今後の運動に役立てていきたいと思えます。



アジアスワニー元組合員との交流

アジアスワニー闘争から始まり、20数年も日韓労働者の交流を継続してこられた全港湾の先輩方、組合員の方がたのご尽力に、あらためて敬意を表し、私も継続していくための活動に力を尽くしたいと思います。